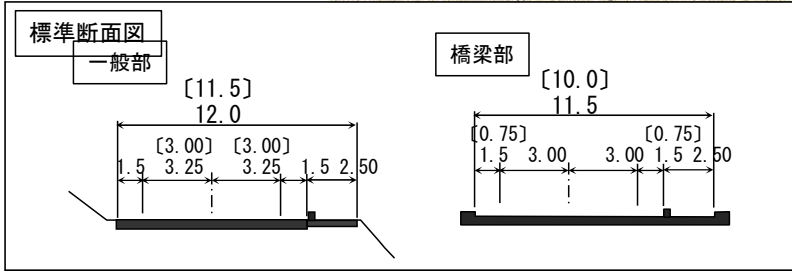
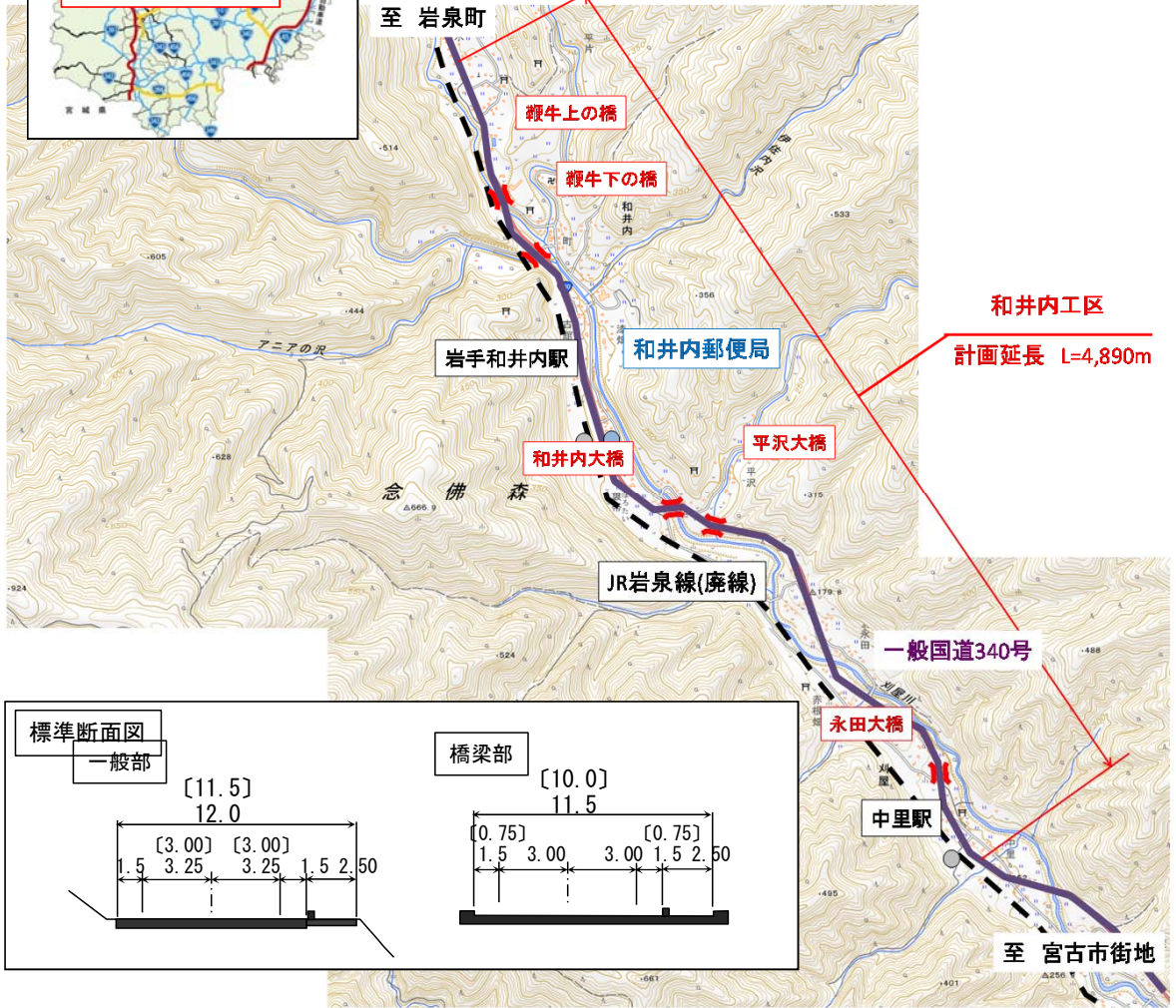


事業名	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)	補助単独	担当部課名	県土整備部 道路建設課				
路線名等	一般国道340号	地区名	わいないどうろ 和井内道路	市町村 宮古市				
〔事業根拠法令等：道路法第12条、第50条〕								
事業概要	<p>(1) 事業目的</p> <p>○路線の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般国道340号は、岩手県陸前高田市を起点とし、青森県八戸市へ至る路線であり、北上高地を縦断する唯一の幹線道路として、沿線地域の住民の生活はもとより、防災や地域間交流の面で重要な役割を担っており、緊急輸送道路に指定されている。 特に防災面においては、「岩手県広域防災拠点整備構想」が策定され、沿岸部と内陸部の中間エリアに二戸、葛巻、遠野、北上の計4エリアの広域防災拠点（後方支援拠点）を配置することとなり、当該路線が担う役割が増している。 また、当該区間に並行するJR岩泉線の廃線後は、当該路線を利用して鉄道の代替交通となる路線バスが運行されることとなった。 <p>○整備前の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該区間は、集落内を通過する唯一のバス路線でありながら、幅員狭小や線形不良により大型車すれ違いが困難な隘路区間となっていた。 また、一部区間においては歩道が未整備となっており、住民の安全で円滑な通行に支障をきたしていた。 <p>○整備によって得られた効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅員狭小及び線形不良を解消し、また歩道を整備することで、速達性及び安全性が向上し、緊急輸送道路としての機能強化及び鉄道代替交通となるバス運行等の安全で円滑な交通確保による地域間の交流連携の促進が図られた。 							
	<p>(2) 事業内容</p> <p>計画延長：L=4,890m、計画幅員：W=6.5(12.0)m、主要構造物：橋梁N=5橋</p>							
	<p>(3) 整備目標等</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅員狭小、大型車すれ違い困難区間の解消：L=4,890m 歩行安全性、快適性の向上：L=4,890m（片側歩道設置） 							
	<p>(4) これまでの評価経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 1997年(H9)：事前評価 1999年(H11)：工事着手 2000年(H12)：一部供用開始（L=280m（5.7%）） 2004年(H16)：一部供用開始（L=580m（17.6%）） 2006年(H18)：再評価（事前評価から10年が経過したもの。評価委員会の意見「事業継続」） 一部供用開始（L=120m（20.0%）） 2007年(H19)：一部供用開始（L=780m（36.0%）） 2011年(H23)：再々評価（再評価から5年が経過したもの。評価委員会の意見「事業継続」） 一部供用開始（L=390m（44.0%）） 2017年(H29)：全線供用開始（L=2,740m（100.0%）） 2018年(H30)：事業完了 							
事業着手	H9年度	事業期間	H9 ～ H30 (H26 (H22))	最終全体事業期間 (前回評価時全体計画期間) (当初全体計画期間)	用地着手	H10年度	工事着手	H11年度
事業費 百万円	当初計画 総事業費 H9年 (うち用地費)	前回評価時 総事業費 H23年 (うち用地費)	最終 総事業費 H30年 (うち用地費)	財源				
	4,400.0 (154.4)	4,400.0 (167.1)	5,466.0 (191.0)	国庫	3,355.9	県単	2,108.4	その他

事業概要図



計画延長		4,890m
計画幅員	一般部	6.0(11.5)m 6.5(12.0)m
	橋梁部	鞭牛下の橋 6.0(10.0)m その他橋梁 6.0(11.5)m
設計速度		60km/h
事業期間		H9~H30
全体事業費		約55億円



事業概要

状況写真 (左：整備前、右：整備後)



整備効果の発現状況

【幅員狭小・線形不良の解消】

一部バイパス区間を設け、計画区間全線を2車線（一般部最小幅員：11.5m）とすることにより、幅員狭小、急カーブが連続する隘路区間を解消し、安全で安心な交通の確保を行ったもの。

	整備前	整備後	備考
延長	4.98km	4.89km	約0.1kmの短縮
最小幅員	W=4.1m	W=11.5m	
車線数	1～2車線	2車線(全線)	
最小曲線半径	R=15m	R=160m	
最急勾配	I=7.4%	I=5.9%	
設計速度	20km/h	60km/h	

【歩行者の安全性確保】

整備前、一部区間において歩道未整備であったが、全区間歩道整備されたことにより、歩行者の安全性が確保できた。

また供用開始（H30.3.30）後は当該区間において事故が発生しておらず、前述と同様、安全性の確保が図られた。



○費用便益分析(全線供用による便益計算)

(単位：百万円)

区分		事業着手時 (基準年：H9)	再評価時 (基準年：H18)	再々評価時 (基準年：H23)	事後評価時 (基準年：R2)
費用項目	改築費	3,289.0	4,284.6	4,578.8	7,829.2
	維持費	436.2	519.1	221.9	315.8
	総費用 (C)	3,725.2	4,803.7	4,800.7	8,145.0
便益項目	時間短縮便益	1,781.7	1,731.5	2,126.8	3,792.7
	走行時間減少便益	25.7	20.3	105.8	126.2
	事故減少便益	1.2	1.4	0.0	0.0
	3便益 ①	1,808.6	1,753.2	2,232.6	3,918.9
	環境改善便益	2.4	2.9	-51.6	24.6
	拡張便益	3,255.7	3,131.2	1,768.8	2,582.2
	その他便益 ②	3,258.1	3,134.1	1,717.2	2,606.8
	小計 ①+②	5,066.7	4,887.3	3,949.8	6,525.7
	修正便益 ③	3,222.4	3,108.3	2,429.1	4,028.2
	総便益 (B) ①+②+③	8,289.1	7,995.6	6,378.9	10,553.9
費用便益比 B (①+②) / C		1.4	1.0	0.8	0.8
(参考) 修正費用便益比 B (①+②+③) / C		2.2	1.7	1.3	1.3

将来交通量 1,400台/日 (H32) 1,140台/日 (H32) 660台/日 (H42) 810台/日 (H42)

費用便益分析が変化した理由

(1) 総費用の増額

資材・労務単価の上昇による増額のため (H23東日本大震災津波後から約130%の増)

【増額内訳】

- ・ 本工事費 : 800百万円 増 (H23比 133.1%)
- ・ 用地補償費 : 160百万円 増 (H23比 111.9%)
- ・ 測量試験費 : 100百万円 増 (H23比 117.7%)

(2) 便益の増

共通事項 : H23再々評価時と比較し交通量が増加。

時間短縮便益 : 走行速度は変更無いが、交通量の増加に伴い便益が増となった。

(3) 費用便益比

前回評価時から費用便益比の変化は無い。

事業の効果等

○利用者アンケート調査内容

①調査対象：宮古市

A：沿線住民

B：特定利用者

行政区画毎に行政連絡員が配布・回収し、最終的に宮古土木センターが回収

郵送により各事業所に送付し、回答記入後同封した返信用封筒により宮古土木センターへ返送

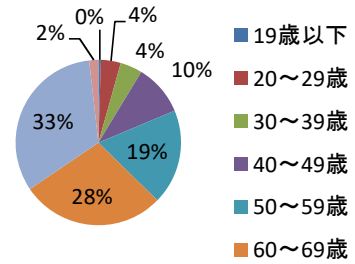
※特定利用者とは、行政、観光、学校、警察、消防、地域内事業者、その他

②調査対象者数：456名（A：357名、B：99名）

③調査時期：令和2年6月3日～6月25日

④回収結果：391名（A：323名、B：68名）
：85.7%（A：90.5%、B：68.7%）

⑤回答者属性：男性270名、女性101名、無回答20名



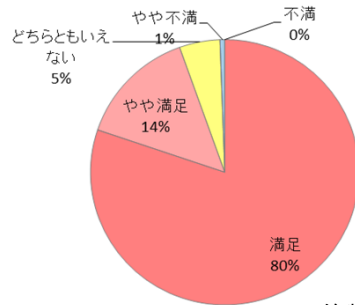
○アンケート結果

(1) 整備に対する満足度（質問：新国道が整備されたことに対してどのように感じていますか。）

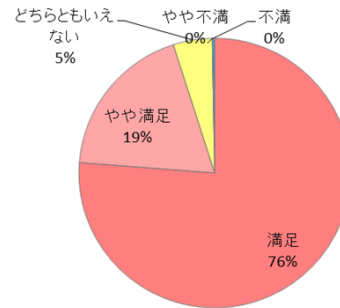
1 新国道について

①大型車すれ違い困難箇所の解消がされた

②カーブが少ない道路が整備された



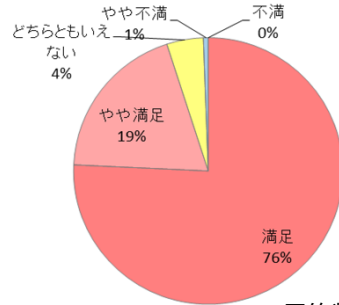
回答数：344名



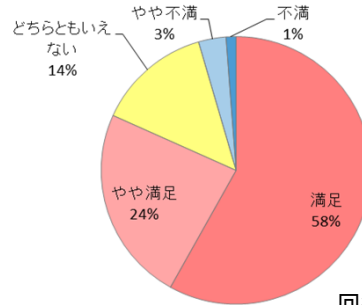
回答数：345名

③歩道が整備された

④除雪した雪をためられる広い路肩が確保された



回答数：342名

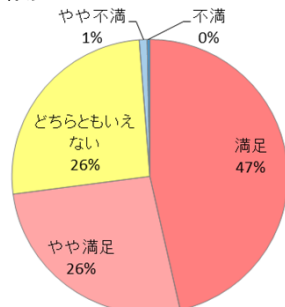


回答数：334名

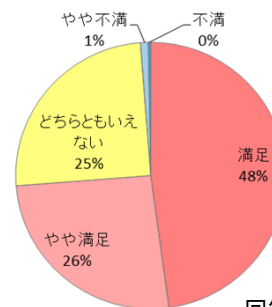
2 旧国道について

①交通量が減少した

②交通事故の心配が減少した



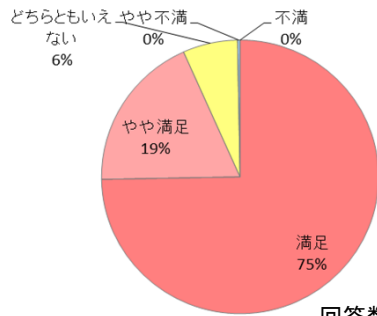
回答数：325名



回答数：324名

利
用
者
等
の
意
見

3 全体として



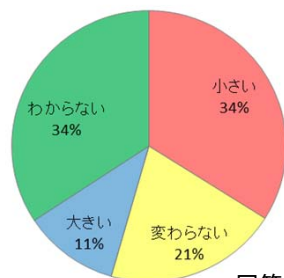
回答数:344名

【考察】

- 各設問において、「満足」または「やや満足」と答えた方が、全体の70%を超える結果となった。
- また、事業全体としての意見についても「満足」または「やや満足」と答えた方が全体の90%を超え、道路整備に対する満足度は高いと考えられる。

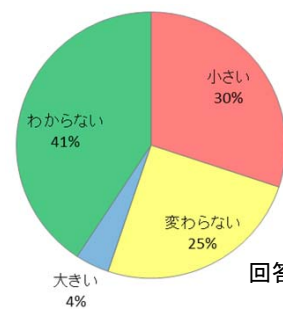
(2) 環境変化（質問：整備後の和井内地区の環境について、どのように感じていますか。）

①騒音について



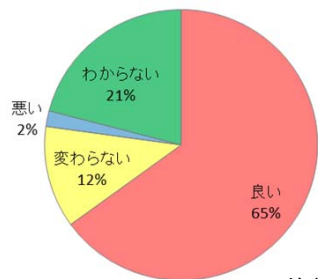
回答数:327名

②排気ガスについて



回答数:319名

③景観について

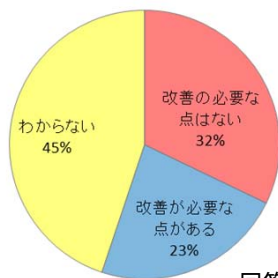


回答数:320名

【考察】

- 騒音・排気ガスについて、道路整備以前と比較して「小さい」と答えた人の割合が30%程度となった一方、「大きい」と答えた人の割合が11%と4%となり、整備による環境への影響は小さいと考えられる。
- 景観について、道路整備以前と比較して「良い」と答えた人の割合は65%となり、整備による景観へ良い影響を与えたと考えられる。

(3) 道路整備について（質問：国道340号和井内地区の道路整備について、改善が必要な点がありますか。）



回答数:283名

【考察】

- 「改善の必要な点はない」と答えた人の割合は32%となり、それに対し、「改善の必要な点がある」と答えた人の割合は23%となった。
- 改善が必要な点として挙げられた意見の殆どが、当事業に対するものではなく、当該工区以北の道路整備や新国道へのアクセス道路への要望に加え、新国道の今後の維持管理についての要望を受けている。

社会経済情勢等の変化

- (1) 事業着手時と事後評価時の社会経済情勢の変化**
 平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波後には、岩手県東日本大震災津波復興計画復興実施計画において災害に強い交通ネットワークの構築として、三陸復興道路整備事業を進めることとしており、当該事業は「復興支援道路」に位置付け道路整備を行ったものである。
 また、当該区間に並行するJR岩泉線が平成26年4月1日に廃線となり、鉄道の代替交通となる路線バスが運行されている。
- (2) 関連する開発プロジェクト等の状況**
 宮古市茂市から岩泉町落合までの約35kmの内、当該工区を含め現在約13kmが改良済みであり、市町境に位置する押角峠工区（L=3.7km）については、令和2年度中に供用を開始する予定である。
 また、和井内から押角峠工区までの未改良区間の一部（L=1.7km）においても、令和2年度より事業着手しており、鋭意事業を推進しているところである。
- (3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項**
(動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分)
- ・ 岩手県自然環境保護指針による環境保全区分：「D」
 - ・ 希少野生動植物の有無：有り
 - ・ 埋蔵文化財：有り
- (事業実施において環境に配慮した事項)**
- ・ 再生AS合材や再生砕石を使用している。
 - ・ 切土・盛土は植生緑化している。
- (事業完了後の環境の変化)**
- ・ 景観に関するアンケートの結果、「良い」と答えた人の割合が60%を超え、「悪い」と答えた人の割合（2%）を大幅に超えており、概ね良好な結果となった。

今後の課題等

(事業名)		地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）				評価の概要					
事業の概要						事業効果等の検証等			改善措置の必要性	事業計画・調査のあり方の見直し	評価手法の見直し
着手年度	完了年度	当初事業費 (百万円)	完成時事業費 (百万円)	再評価 H18年度	再々評価 H23年度	事業の効果等	利用者等の意見	社会経済情勢等の変化			
H9	H30	4,400.0	5,466.0	4,400.0	4,400.0	発現している	肯定的な意見が多い	重大な変化あり(※)	なし	なし	なし

(※東日本大震災後に復興支援道路への位置付け)

- (1) 当該地区についての総括的なコメント及び改善措置の必要性**
- ①総括的なコメント
 本事業は、国道340号の隘路区間を解消し、安全で円滑な交通機能を確保することを目的としたものであり、整備前と比較して、幅員拡大による走行速度の向上や歩道整備による歩行者の安全性の確保などの効果が得られている。
 また、令和2年6月に実施したアンケートによると、事業全体の整備に対する満足度も高いことから、事業の目的を概ね達成しているものと考えられる。
- ②環境改善の必要性
 アンケートの結果から、事業の目的を概ね達成していることを確認しており、改善措置の必要性は無いものと考えられる。
- (2) 今後の同種の事業計画・調査のあり方や事業評価の見直しの必要性**
- ①今後の同種の事業計画・調査のあり方
 今後とも、地域特性や道路に係る課題等について、地元の要望や懇談回答を通じ的確に把握し、地域住民等の合意形成を図りながら事業計画に反映させていきたい。
- ②事業評価の見直しの必要性
 事業着手時に想定した効果が得られていることから、事業評価手法の見直しの必要性はないと考えている。

大規模公共事業 事後評価調書（付表）

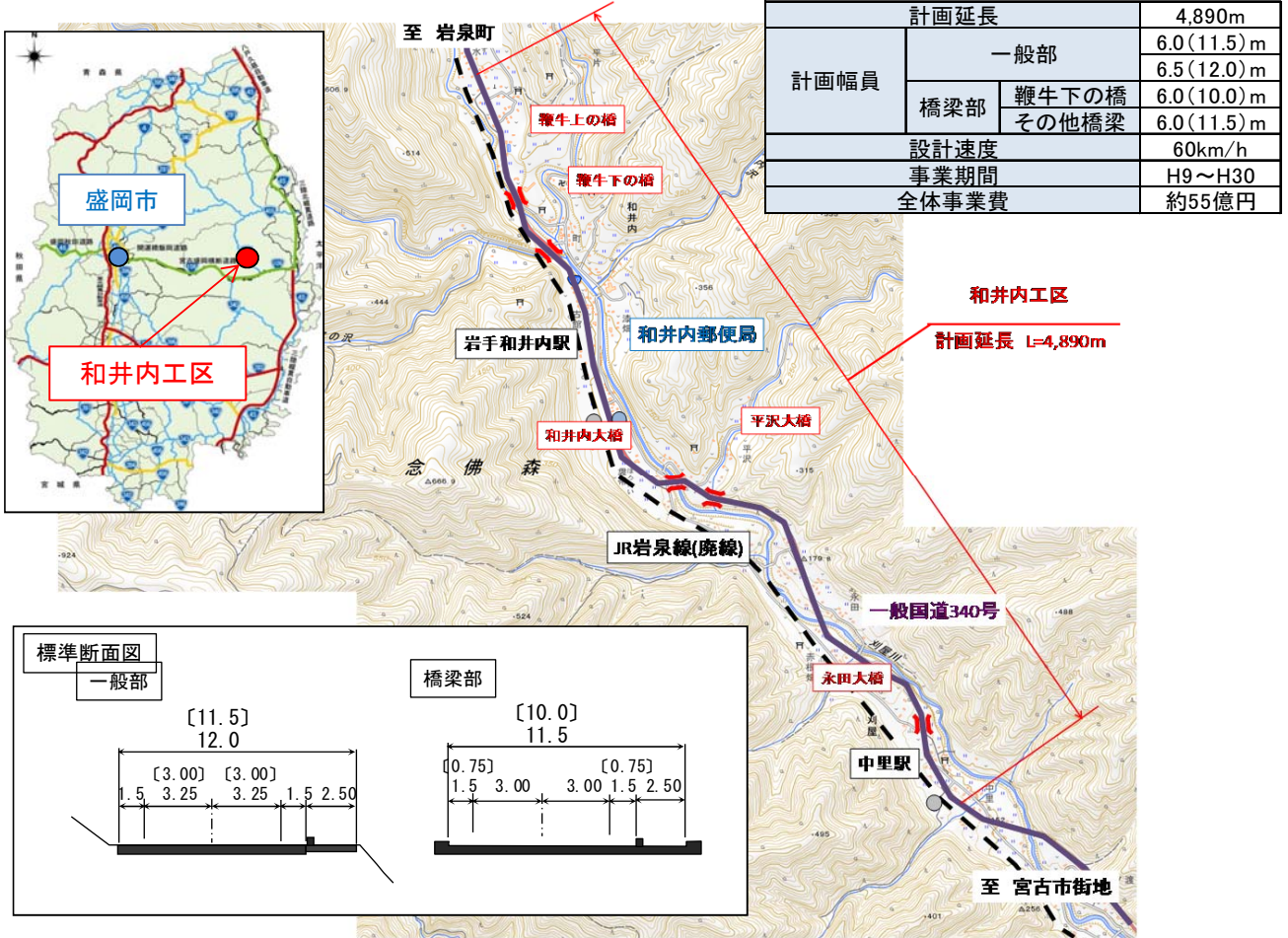
事業名	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)	補助	単独	担当部課名	県土整備部 道路建設課
路線名等	一般国道340号	地区名	わいない とうろ 和井内道路	市町村	宮古市

○事業概要

- 平成 9年度 : 事業着手
- 平成11年度 : 工事着手
- 平成12年度 : 終点部（北側）L=280mの供用開始
→以後、順次舗装工事完了した区間から供用開始
- 平成23年度 : **東日本大震災津波発生**
→一般国道340号を「復興支援道路」に位置付け
- 平成29年度 : 改良舗装工事が全て完了し全線供用

年度	状況	進捗率
H 9年度	事業着手	
H11年度	工事着手	
H12年度	一部供用 (L=280m)	5.7%
H16年度	一部供用 (L=580m)	17.6%
H18年度	一部供用 (L=120m)	20.0%
H19年度	一部供用 (L=780m)	36.0%
H23年度	一部供用 (L=390m)	44.0%
H29年度	全線供用 (L=2,740m)	100.0%

○事業概要図



整備前（幅員狭小・線形不良状況）



整備後（2車線化・歩道整備状況）

